

これからの水道事業の経営の見通し



投資の見通し

主な事業と整備目標

水道施設再構築

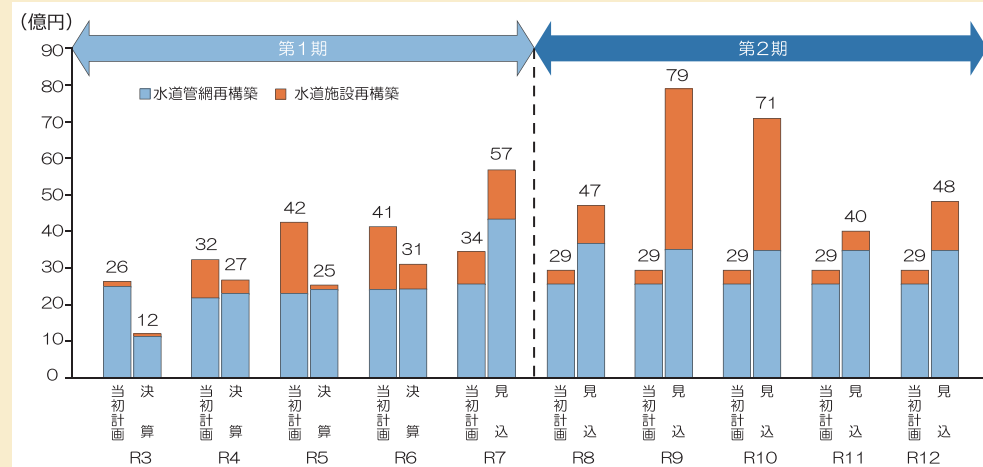
- 水道施設の再編整備を継続し、水走配水場（統合配水場）の設計業務に着手予定
- 第1期から継続している新水道庁舎整備は、令和9年度末に完成予定
- 旭町受水中継ポンプ場の新設、老朽設備等の計画的な更新を実施
- 事業費について、近年の建設工事費の上昇を考慮

水道管網再構築

- 管路口径を適正規模に見直すダウンサイジングを継続
- 基幹管路及び重要給水施設配水管路の更新・耐震化を積極的に推進

投資の見通し

投資額の試算の結果、計画期間（R3～12）の総事業費（事務費を除く・税込）は、当初の約322億円から約114億円増加し、約436億円となる見込み



財政収支の見通し

財政健全化のための取組方針

- 方針1** 料金水準の見直しにより必要な財源確保を図ります
- 方針2** 将来世代へ過度な負担を残さないよう企業債残高を適正に管理します
- 方針3** 国費（国庫補助金・交付金等）を積極的に活用し施設整備を推進します

財政収支の見通し

令和6年度の料金改定検討時に比べ、物価、賃金、金利の上昇が顕著であるため、令和10年4月に約8%の料金改定を行うと仮定した場合、財政目標を下回る可能性がありますので、引き続き料金水準の見直しや企業債残高の適正な管理により安定的な事業運営に必要な財源を確保しつつ、国費を積極的に活用して財政負担の軽減を目指します

「ひがしおおさか水道ビジョン2030中間見直し（令和8年3月）」は、こちらのウェブサイトからご確認いただけます



ひがしおおさか水道ビジョン2030 中間見直し（令和8年3月） 概要版

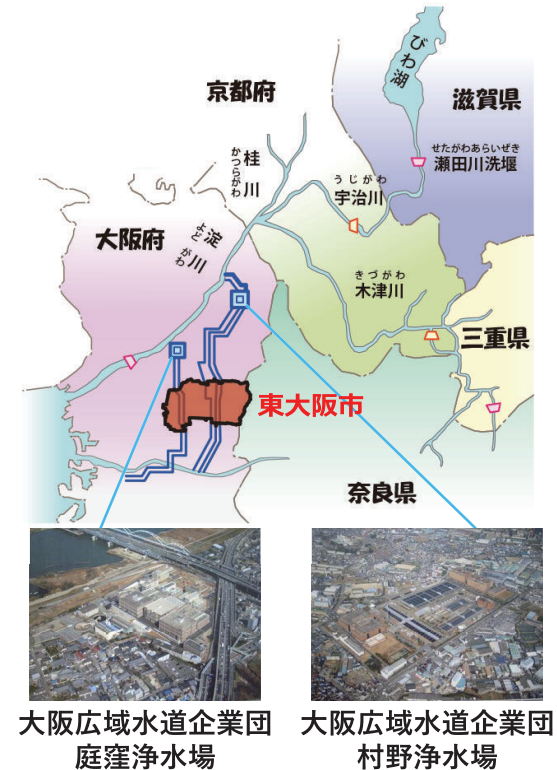
■ 東大阪市の水源

- ◇東大阪市の水源のほとんどは、びわ湖・淀川水系に依存し、大阪広域水道企業団の村野浄水場、庭窪浄水場等において浄水
- ◇東大阪市ではその浄水を市内の複数の配水場等で受水し、施設・管路を通して市内に給水

■ 中間見直しの背景・趣旨

- ◇東大阪市では施設・管路の老朽化を含む様々な課題に対応するため、「ひがしおおさか水道ビジョン2030」を策定し、各種の施策を推進（令和3年度から令和12年度までの10年間）
- ◇本中間見直しは近年生じている事業環境の変化や施策の進捗を踏まえ、残りの5年間の対応方針を提示

- ～ 近年における事業環境の変化 ～
- 人口減少や節水による水需要の減少
 - 全国的な地震発生や管路事故等の多発
 - 昨今の物価、賃金、金利の上昇等



■ 中間見直しにおける主な変更点

- 統合配水場の整備（老朽化や耐震性等に課題がある配水場等を統合し、最適な配置・規模で更新）
- 基幹管路、重要給水施設配水管路を中心に管路の耐震化目標を高め、耐震化をスピードアップ
- 統合配水場の整備、物価の高騰等を踏まえた経営見直し（投資・財政計画）に見直し

ビジョンの施策体系と中間見直しにおける主な変更点

基本理念 ささえる・つながる・未来につなぐ - 健全水道 東大阪 -

3つの将来像

安全・安心・安定の信頼される水道

災害に備えた強靱な水道

健全な経営を継続できる水道

8つの実現方策

- 安全な水道水質の維持・向上
- 効率的な水道施設の再構築と維持管理
- 水道施設のレベルアップ
- 危機管理のレベルアップ
- 経営基盤の強化
- 組織運営の強化・効率化
- お客さまサービスの向上
- 環境への配慮

18の施策

- ① 水質管理体制の充実
- ② 鉛製給水管解消の推進★
- ③ 貯水槽水道への指導・助言強化と直結給水の推奨★
- 重点** ④ 水道施設の最適な配置・規模での整備★
- 重点** ⑤ 水道施設の適切な更新・維持管理の推進★
- 重点** ⑥ 水道施設の防災対策の推進★
- 重点** ⑦ 危機管理体制の充実
- ⑧ 地域・他事業者・企業との連携の推進
- ⑨ 適切な資産管理の推進
- 重点** ⑩ 必要な財源確保の推進★
- ⑪ 効率的な組織運営の推進
- ⑫ 水道に精通した人材の育成
- 重点** ⑬ 広域連携・官民連携の推進★
- 重点** ⑭ 広報・広聴手法の充実
- ⑮ 水道サービス・手続の充実
- ⑯ 給水装置工事への対応の向上
- ⑰ 省エネルギーに努めた水運用の推進
- ⑱ 環境へ配慮した事業の推進

主な取組み実績 (R3~R7) と中間見直しの概要

安全・安心・安定の信頼される水道

実現方策 1

安全な水道水質の維持・向上

鉛製給水管解消の推進

実績：●鉛管解消計画に基づき、鉛製給水管の解消を推進

計画：○目標数値を見直し、鉛製給水管の早期解消を推進

指標項目	当初数値 (R1)	中間目標 (R7)	最終目標 (R12)
鉛製給水管率	8.4%	(当初) 5.5% (見込) 4.7%	(当初) 3.1% (変更) 1.8%

貯水槽水道への指導・助言強化と直結給水の推奨

実績：●調査依頼のあった小規模貯水槽水道について、必要に応じて指導・助言を実施

計画：○目標数値を見直し、計画的な調査、効果的な指導を実施

指標項目	当初数値 (R1)	中間目標 (R7)	最終目標 (R12)
小規模貯水槽水道 点検率	-	(当初) 80.0% (見込) 4.6%	(当初) 100.0% (変更) 84.0%

実現方策 2

効率的な水道施設の再構築と維持管理

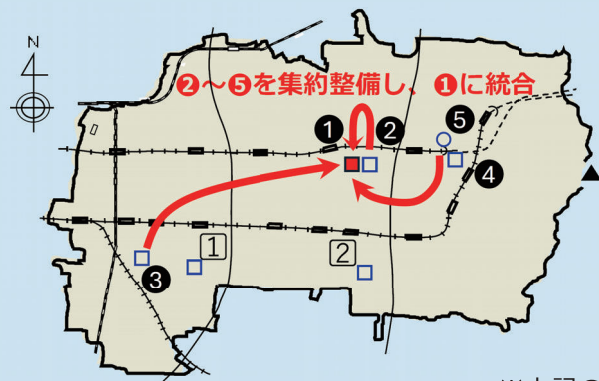
水道施設の最適な配置・規模での整備【重点施策】

実績：●石切高区浄水場の配水池化に向けた整備

●旭町受水中継ポンプ場建設工事に着手

●管路の更新において、ダウンサイジングを実施

計画：○2つの配水場と取水場・浄水場の廃止、水需要の減少に応じダウンサイジングした規模に見直すとともに市内水道施設の最適配置を見据えた**統合配水場の整備に着手**



施設再編整備の順序 (計画)

- ① 統合配水場【新設】
- ② 水走配水場【廃止】
- ③ 菱屋西配水場【廃止】
- ④ 石切低区浄水場【浄水廃止/配水池化】
- ⑤ 石切低区取水場【廃止】
- ⑥ 平野部配水ブロック化 (並行して実施)

※上記のほか、① 上小阪配水場、② 池島配水場は、既存施設を引き続き活用

水道施設の適切な更新・維持管理の推進

実績：●計画的な施設・設備の点検、修繕及び更新を実施

●人工衛星を活用した管路の漏水探知を実施

計画：○コンクリート製配水池について、点検頻度を5年に1回とし、計画的な点検を実施

指標項目	当初数値 (R1)	中間目標 (R7)	最終目標 (R12)
配水池調査率	27.3%	(当初) 81.8% (見込) 63.6%	(当初) 81.8% (変更) 100.0%

災害に備えた強靱な水道

実現方策 3

水道施設のレベルアップ

水道施設の防災対策の推進【重点施策】

実績：●基幹管路、重要給水施設配水管路を中心に、管路の更新・耐震化を計画的に実施

計画：○目標数値を見直し、管路の更新・耐震化を一層推進

指標項目	当初数値 (R1)	中間目標 (R7)	最終目標 (R12)
管路の耐震管率	15.8%	(当初) 19.9% (見込) 20.6%	(当初) 24.3% (変更) 25.0%
基幹管路の耐震適合率	33.5%	(当初) 53.2% (見込) 60.3%	(当初) 65.3% (変更) 67.8%
重要給水施設配水管路 の耐震適合率	-	(当初) 39.6% (見込) 44.6%	(当初) 54.4% (変更) 56.0%

実現方策 4

危機管理のレベルアップ

危機管理体制の充実【重点施策】

実績：●重要給水施設である医療機関や第一次避難所(小・中学校)において応急給水方法の現地調査を実施

●日本水道協会等との合同訓練を実施

計画：○災害対策にかかる研修・訓練や応急給水施設の整備・維持管理を推進

健全な経営を持続できる水道

実現方策 5

経営基盤の強化

必要な財源確保の推進【重点施策】

実績：●適正な水道料金への見直し(令和7年10月から平均約19%改定)

●未納対策の強化 [料金収納率: R1 (98.8%) ⇒ R7見込 (99.2%)]

計画：○目標数値を見直し、水走配水場(統合配水場)の投資期間は500%以下に設定

※投資期間終了後、将来的には350%以下を目指す

指標項目	当初数値 (R1)	中間目標 (R7)	最終目標 (R12)
給水収益に対する 企業債残高の割合	219.6%	(当初) 350.0% 以下 (見込) 299.9%	(当初) 350.0% 以下 (変更) 500.0% 以下

実現方策 6

組織運営の強化・効率化

広域連携・官民連携の推進【重点施策】

実績：●大阪広域水道企業団との統合検討の実施

●近隣事業者との水質共同検査や人工衛星を活用した漏水探知の実施

●新水道庁舎整備におけるPFI手法の採用

計画：○他の事業におけるPFI手法等の採用検討

実現方策 7

お客さまサービスの向上

広報・広聴手法の充実【重点施策】

実績：●水道週間イベント等の実施

●上下水道事業経営審議会の開催

●LINEアンケート等の実施

●「ひがしおおさか水道広報戦略」の策定

計画：○戦略的な情報提供・PRの推進・充実

※実績 ● : R3~R7の取組 計画 ○ : R8~R12の取組予定 Rは令和(年度)